

經濟論叢

第146卷 第1号

伊東光晴教授記念號

献 辞	菊池光造	
中国農村地域における電気通信の発展	山田浩之	
	西村周三	
	直江重彦	1
ソ連の石炭産業の再編	大津定美	17
費用便益分析の厚生経済学的基礎	岡敏弘	35
A. セン潜在能力の経済学とケインズ革命	池上惇	55
現代の産業システムと情報ネットワーク	浅沼万里	74
メンガー『経済学原理』の成立	八木紀一郎	97
「産業構造」と価格分析	瀬地山敏	124

伊東光晴 教授 略歴・著作目録

平成2年7月

京都大學經濟學會



伊東光晴教授近影

伊東光晴 教授 記念論文集

献 辞

伊東光晴先生は、本年9月11日、63歳の誕生日をお迎えになり、この3月31日をもって本学を退官されることになりました。

先生は、昭和26年に東京商科大学を卒業され、東京外国語大学、法政大学、千葉大学での勤務を経て、昭和60年、本学経済学部教授（経営政策大講座）にられました。そして、昭和62年1月には本経済学研究科最初の独立専攻である現代経済学専攻の創設委員長に就任し、同4月より現代経済学専攻現代経済学講座の教授として、今日まで同専攻における研究教育ならびに講座の拡充に努力してこられました。

先生は、ケインズ研究の第一人者として、我が国における「一般理論」解釈に大きな影響を与えられました。この分野における先生のご研究の成果は、幅広い読者を得た「ケインズ」（1962年）、および宮崎義一教授との共著「ケインズ一般理論コンメンタール」（1964年）に結実しております。

さらにまた、先生は理論と現実の緊張関係ということをつねに重視され、その上に具体的な政策提言をおこなってこられました。先生の時事論説を集めた著書である「経済学は現実にくたえうるか」（1984年）、「技術革命時代の日本」（1989年）は、その方面での代表的業績であります。

先生はこうした実績を背景に、経済学史学会幹事、理論・計量経済学会理事、経済政策学会常任理事などを勤められました。

他方、先生は研究と教育にとどまらず、平成2年1月よりご退官まで経済学部長の重責を担われ、現代経済学講座における経営関係新講座の拡充や、関連講座の充実を実現されました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたる学恩に感謝し、「経済論叢」の月号を記念号として編集することになりました。先生のご指導を受けられた方々の労作を集めて、先生に捧げることができましたことは、わたくしどものこのうえない喜びであります。

先生が、今後とも、ますますご健康で、学界のため、また広く社会のため、ご活躍くださいますことをこころからお祈りいたします。

1990年6月25日

京都大学経済学部評議員 菊池光造